資料４－１

「衛星放送の将来像に関する研究会」
（第３回会合）議事要旨

１　日時

平成１７年１１月３０日（水）　１０：００～１２：００

２　場所

総務省　１１０１会議室（１１階）

３　出席者

(1)構成員（五十音順、敬称略）

浅野睦八、石橋庸敏、伊東晋、音好宏、角川歴彦、岸上順一、髙畑文雄、竹中一夫、鳥居昭夫、長田三紀、舟田正之、森忠久、山下東子

(2)総務省

清水政策統括官、河野官房審議官、福岡総務課長、南放送政策課長、岡崎地域放送課長、今林衛星放送課長、山本衛星放送課調査官、箆島衛星放送課課長補佐

(3)事業者・団体

・ＢＳ民放テレビ７局

黒水則顯（株式会社WOWOW常務取締役）

・社団法人電子情報技術産業協会

高柳宣治（デジタル家電部会テレビネットワーク事業委員会デジタル放送専門委員会主査）、田村和彦（デジタル家電部会受信システム事業委員会地上デジタル放送受信システム専門委員会主査）

４　議事内容

(1)開会

(2)衛星放送の将来像に関する研究会幹事会（第２回会合）について

(3)衛星放送に係るサービス及び技術の将来像に関する意見陳述等

・社団法人日本民間放送連盟

・ＢＳ民放テレビ７局

・社団法人電子情報技術産業協会

・東京都地域婦人団体連盟

(4)全体討議

(5)閉会

５　主な議論

事務局から席上配布資料及び衛星放送の将来像に関する研究会（第２回会合）について説明がなされた。

衛星放送に係るサービス及び技術の将来像に関し、以下のような意見陳述等が行われた。

(1)社団法人日本民間放送連盟

・アナログ３チャンネルについては、現行の MPEG-2 方式によるべきであり、H.264 等の新方式を導入すると、１千万台を超えて普及している現行のＢＳデジタル受信機で受信できなくなる。また、仮に新方式の機能を新しく製造・販売されるものに加えると受信機価格が高く

なる等、現時点で早急に新方式を導入することは疑問。

・新４チャンネルについては、技術の進展、視聴者ニーズ、事業性等を勘案し、今すぐ結論を出す必要もないのではないか。

(2)ＢＳ民放テレビ７局

・アナログ３チャンネルについては、現行の３波共用受信機の普及等視聴者利益を考慮すると、MPEG-2、MULTI2 による現行放送方式が望ましい。

・新４チャンネルについては、新技術での対応について検討し、現時点のみならず２０１１年時点で最適・最良の技術を採用する方向が望ましい。

(3)社団法人電子情報技術産業協会

・新４チャンネルの利用について、一般家庭の場合、施設の改修が必要となるが、これについては、当チャンネルによる新サービスを視聴したい者のみがブースター等を交換すればよく、既存サービスへの影響はない。

・１２ＴＳを超え１６ＴＳによる送信については、一部の現行受信機において受信できないものがあり、ソフトウェアによる対応も不可能。受信できないＴＳについては、既存サービスの受信への影響がないようにすることは技術的には可能。また、そのような現行受信機がどれだけあり、いつ生産されたか等については、１１メーカに対し調査済み。

(4)東京都地域婦人団体連盟

・デジタル放送については、地上デジタル放送のみで十分という消費者も多く、これ以上視聴が可能となるものが魅力になるかどうかは疑問。デジタル放送全体の中でＢＳ放送のニーズを考慮し、ＢＳ放送の位置づけを明確にすることが必要ではないか。

・放送サービスについては、受信機の価格が携帯電話等より高価であり、消費者の依存度も大きいため、新サービスを積極的に求める消費者とは別に、現実的なニーズを捉えた対応が望ましく、消費者へ周知・広報することが重要。

（了）